

# SCT-Bの評定について

## —項目別の反応パターンの検討—

小林 哲郎

### 1. はじめに

SCT-Bは精研式文章完成法の刺激語（家庭、身体、社会の3領域との関係を考慮して選んだ25項目）を呈示して文章を書かせた後に、「が」という接続助詞を用いて全体が1つの文章になるように、もう1つ文章を書かせる課題である。SCT-Bは、施行時間の問題上刺激語の数は制限されるが「が」の前後での反応の変化にその個人のパーソナリティが反映される。

筆者は、このテストをいくつかの大学等で施行し、「が」の前後の変化にいくつかのパターンがあることを見出した。そのパターンの評定の基準については、前回の論文〈小林哲郎（1985）金沢美術工芸大学学報29号〉に詳しく解説し、評定者間の評定の信頼性に関する検討〈小林（1985）学会発表〉も行なったが、パターン評定が誰にでも正確に簡単にできるかどうかということに関しては、まだ説明不足の点があるように思われる。

そこで、本論文では実際に評定する際に直面する問題を想定しながら、筆者の考えを述べ、また各項目毎にどのような反応が出現するかを具体的に検討することで、このテストを評定する際の基準を再度明確にしておきたいと思う。

### 2. 反応パターンの評定

SCT-Bの反応パターンには以下の14パターンと「その他」「疑問反応」がある。

#### ①肯定・否定

前半で肯定（否定）的感情を述べ、後半で否定（肯定）的感情を述べるパターン。

#### ②肯定・肯定

前半でも後半でも肯定的感情を述べるパターン。

#### ③否定・否定

前半でも後半でも否定的感情を述べるパターン。

#### ④例外

前半で肯定（否定）しておいて後半で例外的な否定（肯定）面を述べるパターン。このパターンにはいくつかのバリエーションがある。たとえば前半で肯定（否定）した事物や事象について部分的に否定（肯定）することもあるし、限定された状態になると問題が生じるというような表現もこのパターンである。

#### ⑤受容

前半では否定的感情を述べるが、後半でそれを受容するパターン。

#### ⑥拒絶

前半では受容したものの後半で否定的感情を述べるパターン。

#### ⑦理想・現実

前半で理想、願望、原則等を述べ、後半では実際の状況、現実的問題等を述べるパターン。

#### ⑧期待・不安

前半で期待、希望を述べ、後半ではそのことについての不安を述べるパターン。

#### ⑨過去・現在

前半、後半で過去と現在の違いについて述べているもの。ただし英文法でいうような大過去と過去の関係の中で違いに言及しているものもこのパターンに入れる。

#### ⑩希望

前半で述べた内容に関して後半で希望、願望を述べるパターン。

#### ⑪不安

前半で述べた内容に関して後半で不安を表明

するパターン。

#### ⑫決意

前半で述べた内容に関して後半で決意や努力を表明するパターン。

#### ⑬自己

前半で述べた内容に関して後半で自分に関係づけるパターン。

#### ⑭説明

前半で述べた内容に関して後半で説明したり気持ちを述べたりするパターン。

また、以上の反応パターンについて前回の論文で述べた注意点も箇条書きで再掲しておく。

○「肯定・否定」（以下「肯一否」と略記）から「過去・現在」（以下「過一現」と略記）までは前半と後半の両方の内容を問題とするのに対し「希望」以下は後半の内容を問題とする。複数のパターン要素がある時は、先のパターンを優先する。

○組み合わせ評定は2つまで認められるが、多用は避けるべきである。また「肯一否」のみ、前半部だけで「肯一否」をしていれば、後半部の記述内容と合わせて組み合わせ評定をする。○肯定的、否定的感情が前、後半でみられるものは「肯一否」「肯定・肯定」「否定・否定」「例外」である。「理想・現実」（以下「理一現」と略記）「期待・不安」（以下「期一不」と略記）「拒絶」「受容」等は消極的肯定（否定）が多い。

○肯定（否定）的感情は文脈を手掛りとして判断するが、深読みはしない。しかし、希望、願望、必要性、同情等も肯定的感情とする。

○あくまで刺激語に対する感じ方を問題にし、後半で対象が変わった時は「説明」とする。

○「例外」は後半部で複数の中の1部分とか、時間的、空間的に限局された場合に評定し「肯一否」は1つの対象の2面が強調される時に評定する。

○「自己」は、後半部で前半部の内容に対して「自分は～だ」という反応をした時に評定する。

以上が、前回の論文で触れた点であった。しかし、その後評定者間の評定の一致率の検討を行なった際、筆者以外の評定者の評定を通して

幾つかの注意点が浮き彫りになったので、その点についても、ここで箇条書きで説明しておく。

○「肯一否」と「例外」の区別は以前にも説明したが、評定上の目安として筆者は後半部の表現が「～な面もある」「～なところもある」という様な時は「肯一否」にしており「～な時もある」という表現は「例外」としている。また「例外」は感情を含んでいる場合に評定するものであり、形式としての例外は「説明」とする。○健康、からだ、頭脳等について「普通」「人並み」「まあまあ」等の表現は消極的肯定か中性的評価であり「肯一否」等の積極的肯定にはとらない。

ex) 私の頭脳 はふつうだ が 時々さえる（形式としては「例外」だが前半部が積極的肯定ではないので「説明」になる）

○「受容」は前半部に否定的（積極的なことも消極的なこともある）表現があることが条件であり、「理一現」は「が」の中に「～とはいうものの」というニュアンスを含んでいる。しかし、前半部が否定的でも後半部の表現が客観的な現状を記述したものであれば「理一現」とする。

ex) 争い は嫌だ が さけることはできない（「受容」）

ex) 争い は嫌だ が この世からなくならない（「理一現」）

○「決意」は自分が努力しようという意志や「～あるべき」というように期待される理想像に言及している場合に評定するが、「希望」は依存的、他力本願的であり「～してほしい」「～たらいいのに」「～したい」等の表現である。

ex) 「男 が弱くなっている が もっと堂々とすべきだ」（「決意」）

ex) 「学校 のことは余り考えてない が 教わることは教わっておきたい」（「希望」）

### 3. 項目別の反応パターン

ここで、項目別に出現するパターンを検討する。出現パターンは被検者集団によって異なることが考えられるので、今回は金沢大学学生213名（男150、女63、平均年齢18.6才）と金沢美術工芸大学学生77名（男45、女32、平均年齢

19.6才)のデータから各項目毎に反応パターンの出現率を表にした(表1は金沢大学、以下A校と記す。表2は金沢美術工芸大学、以下B校と記す。なおこのデータは心理学の講義時間に集団施行で得られたものである)。この表は、反応数(全反応から後半無反応数と疑問反応数を引いたもの)に占める各パターンの出現率(パーセント)である。従って各項目毎の総和が100になる。また、パターンによって全体の出現率が異なるので、パターン毎の出現率の平均を最下列に示してある。

今回の分析ではSCT-B(K-85版)の各項目毎に両校に共通して出現率の高いパターンを中心に検討し、その原因を考察する。集団によってパターンの出現率は異なると思われるが2校の分析によって大まかな出現傾向は把握できるものと考えている。

### (1)子どもの頃私は

この項目は「子どもの頃私はよく遊んだが今は遊べない」という様な「過一現」の出現率の高さが目立つ。そして「説明」の次に多いのが「肯一否」であるが、この「肯一否」は「過一現」との組み合わせ評定によるものが多い。例えば「子どもの頃私は内気だったが今は明るくなった」(「肯一否」+「過一現」という様な反応である。

### (2)家の人私は私を

この項目は「家の人私は私を子供扱いするが私はもう大人だ」という様な「自己」の出現が特徴である。前半部では家族が自分をどう考えているかという記述が多いので、後半部ではそのことに対する自分の態度の記述がふえるためであろう。また「自己」は組み合わせ評定になることが多く、「自己」+「不安」とか「

表1 各項目の反応パターン分布(%)：金沢大学

	肯定・否定	肯定	否定	例外	受容	拒絶	理想・現実	期待・不安	過去・現在	希望	不安	決意	自己	説明	その他
1. 子どもの頃私は	15.7	1.0	0.2	0.5	0.5	—	—	—	47.6	0.2	—	0.5	—	33.8	—
2. 家の人私は私を	20.1	1.8	1.3	8.9	5.2	—	—	—	4.7	2.6	2.1	0.5	27.3	25.5	—
3. 私が嫌いなのは	0.5	—	4.3	3.2	19.9	—	4.0	—	0.5	0.5	—	3.5	20.4	43.0	—
4. 死	0.5	—	2.6	2.1	36.3	9.0	3.7	0.5	—	13.2	2.6	3.7	0.3	25.5	—
5. 私の頭脳	6.1	—	2.1	10.6	25.0	1.1	12.2	0.5	0.8	6.4	3.2	4.5	0.8	26.6	—
6. 将来	—	—	—	—	7.4	0.5	14.2	30.7	1.0	14.5	1.0	10.4	2.0	17.8	—
7. 私の父	33.0	3.7	0.5	7.3	5.0	0.5	0.5	—	0.8	1.3	—	0.3	9.1	37.5	0.5
8. 世の中	16.9	—	1.5	4.1	19.0	0.8	4.1	0.5	0.3	6.2	3.3	15.1	8.2	20.0	—
9. 仕事	9.1	—	—	4.2	13.5	0.3	28.0	5.2	—	8.6	3.1	11.1	0.3	16.8	—
10. 私のからだ	9.0	—	2.1	16.5	14.4	—	7.2	—	2.1	4.9	11.3	8.3	1.0	23.2	—
11. 私の兄弟(姉妹)	11.1	2.8	—	7.5	1.7	1.1	0.6	—	2.2	10.0	0.6	—	9.2	53.3	—
12. 女	22.9	0.5	0.5	15.4	5.1	—	11.2	0.5	0.3	5.3	—	—	6.7	31.7	—
13. 友だち	4.6	2.2	0.5	33.3	1.1	—	18.3	—	1.1	4.8	2.7	2.4	3.2	24.7	1.1
14. 私の母	33.3	6.8	1.1	10.5	4.7	0.3	2.4	—	1.3	2.6	1.6	—	6.8	28.8	—
15. 争い	4.5	—	3.2	25.4	26.5	2.9	20.1	—	—	2.9	1.1	3.7	1.9	7.9	—
16. 私が好きなのは	—	—	—	12.0	—	0.6	41.7	—	1.7	4.0	1.1	1.1	—	37.7	—
17. 男	9.3	1.7	0.6	6.0	5.0	—	24.7	0.6	—	2.2	1.1	9.9	5.5	33.0	0.6
18. 恋愛	11.7	—	—	13.1	3.4	—	29.6	1.1	—	17.9	—	2.3	0.6	19.9	0.6
19. 学校	6.6	—	—	20.0	13.2	0.5	20.5	—	—	3.2	—	5.8	1.8	28.4	—
20. 私が得意になるのは	3.5	—	—	8.2	2.4	—	35.9	—	0.6	4.4	1.2	4.7	2.7	35.9	0.6
21. 金	11.1	1.6	0.5	2.6	6.2	—	37.8	0.5	—	10.4	0.5	6.7	1.6	20.5	—
22. 私の健康	1.7	—	—	16.2	12.1	—	13.3	—	0.6	3.5	16.2	8.7	2.9	24.9	—
23. 女・男(異性)友だち	7.6	0.5	0.5	13.0	4.3	—	21.6	1.1	—	13.5	1.6	5.7	1.9	28.1	0.5
24. 私を不安にするのは	3.0	—	0.6	1.2	35.8	—	3.6	—	1.2	5.9	4.1	17.5	3.6	23.1	0.6
25. 家	13.8	0.6	—	6.8	4.5	—	27.1	—	—	4.5	2.3	2.3	2.0	35.6	0.6
平均	10.2	0.9	0.9	9.9	10.9	0.7	15.3	1.6	2.7	6.1	2.4	5.1	4.8	28.2	0.2

表2 各項目の反応パターン分布(%)：金沢美術工芸大学

	肯定・否定	肯定	否定	例外	受容	拒絶	理想・現実	不安・期待	過去・現在	希望	決意	決意	自己	説明	その他
1. 子どもの頃私は	12.0	—	5.3	4.0	5.3	—	—	—	38.7	1.3	—	—	1.3	32.0	—
2. 家の人は私を	15.9	1.5	2.3	12.1	9.9	—	1.5	—	4.6	1.5	2.3	—	32.6	15.9	—
3. 私が嫌いなのは	4.1	—	11.5	9.8	15.6	—	1.6	—	—	1.6	—	4.1	32.0	19.7	—
4. 死	7.6	3.0	1.5	1.5	15.2	4.6	9.1	1.5	—	11.4	7.6	5.3	1.5	30.3	—
5. 私の頭脳	15.3	—	5.1	20.3	5.1	1.7	3.4	1.7	1.7	8.5	3.4	3.4	—	30.5	—
6. 将来	—	—	1.5	—	9.0	—	16.4	29.9	—	17.9	6.0	9.0	—	9.0	1.5
7. 私の父	27.9	1.5	4.4	19.1	5.9	2.9	2.9	—	1.5	4.4	—	—	5.9	23.5	—
8. 世の中	15.2	—	1.5	5.8	13.8	—	7.3	1.5	—	5.1	2.9	8.0	14.5	21.7	2.9
9. 仕事	10.3	—	—	19.1	4.8	—	21.4	6.4	—	7.9	1.6	9.5	1.6	17.5	—
10. 私のからだ	12.5	—	3.1	18.8	17.2	—	1.6	—	—	15.6	—	9.4	—	21.9	—
11. 私の兄弟(姉妹)	13.7	3.2	4.0	14.5	4.8	—	3.2	—	—	8.1	1.6	—	6.5	37.1	1.6
12. 女	21.1	—	1.6	18.8	17.2	—	3.1	—	—	10.9	1.6	1.6	0.8	23.4	—
13. 友だち	6.3	—	1.6	22.7	3.1	—	18.8	1.6	—	7.0	3.1	3.1	4.7	28.1	—
14. 私の母	47.7	12.1	—	10.6	7.6	1.5	—	—	—	1.5	—	—	3.0	14.4	1.5
15. 争い	12.3	—	4.6	28.5	18.5	1.5	16.9	—	—	4.6	—	3.1	2.3	7.7	1.5
16. 私が好きなのは	3.7	—	—	14.8	—	—	26.9	—	—	3.7	3.7	1.9	2.8	37.0	5.6
17. 男	13.8	—	—	20.7	1.7	—	9.5	1.7	—	1.7	—	1.7	4.3	41.4	3.5
18. 恋愛	16.4	1.6	—	21.9	—	1.6	23.4	4.7	—	8.6	1.6	1.6	3.1	15.6	—
19. 学校	11.2	—	—	17.9	13.4	—	20.9	—	1.5	6.0	—	7.5	4.5	17.2	—
20. 私が得意になるのは	5.7	—	—	18.9	—	—	37.7	—	—	1.9	1.9	7.6	3.8	22.6	—
21. 金	9.4	2.9	—	1.5	2.9	—	49.3	—	—	12.3	1.5	5.8	1.5	10.1	2.9
22. 私の健康	—	—	—	21.7	11.7	—	15.0	—	—	8.3	6.7	5.0	—	30.0	1.7
23. 女・男(異性)友だち	9.3	—	—	28.8	3.4	—	26.3	—	—	10.2	3.4	—	2.5	16.1	—
24. 私を不安にするのは	5.4	—	—	8.9	25.9	—	5.4	—	1.8	5.4	5.4	15.2	5.4	21.4	—
25. 家	10.3	—	1.7	6.9	3.5	—	24.1	3.5	—	3.5	1.7	1.7	—	43.1	—
平均	12.3	1.0	2.0	14.7	8.0	0.6	13.8	2.1	2.0	6.8	2.2	4.2	5.4	23.5	0.9

自己」＋「受容」等の反応も出現する。

**(3)私が嫌いなのは**

この項目では両校の差が大きい。「説明」「自己」「受容」が多い様である。「説明」は「私が嫌いなのは ピーマンだ が 玉ネギも嫌い」という様な並列的な記述が多く、「自己」は「私が嫌いなのは うそをつく人だ が 自分もついている」という様に自分に目を向けるパターンである。また、「私が嫌いなのは ピーマンだ が 全然食べないわけではない」という記述が「受容」である。

この項目の様に「私が～のは○○だ」という場合、前半部を「私は○○が～だ」と考え、その○○について後半でどう記述するか注目する。このK-85版のSCT-Bでは、「私が好きなのは」「私が得意になるのは」「私を不安

にするのは」をこの考えで評定する。

**(4)死**

この項目では両校で集中の度合いが異なるが「受容」の出現が多い様である。A校では「受容」への集中が見られるが、B校では分散する傾向がある。「受容」は「死 ねのは嫌だ が避けられない」という様なものである。また「死 ぬのは怖い が 死ぬ時は楽に死にたい」という様な「希望」も多い。

**(5)私の頭脳**

この項目も両校の差が大きく、A校では「私の頭脳 は悪い が 仕方ない」という様な「受容」と「私の頭脳 はすばらしい が 単位がとれない」という様な「理-現」そして「私の頭脳 はにぶい が 時々さえる」という様な「例外」のパターンが多い。それに対してB

校では「私の頭脳 はめちゃくちゃだ が 天才かもしれない」という様な「肯一否」と「例外が多い」。

#### (6)将来

この項目の特徴は「将来 教師になります が 大丈夫だろうか」という様な「期一不」が多いことである。このパターンは、他の項目にはほとんど出現しない。他には、「将来 は教師だ が 単位を落とした」という様な「理一現」「将来 わからない が 教師になりたい」という様な「希望」のパターンが多い。

#### (7)私の父

この項目は「私の父 はやさしい が 厳しい面もある」という様な「肯一否」の出現が多いのが特徴である（B校では「例外」も多いが記述が微妙に違うだけのことが多い）。また、父の職業や趣味を記述する「説明」がA校で多い。この項目と「私の母」で「肯一否」の出現が多いのは、父母が二面的感情を向け易いためであり、それだけ各個人との接触が多くしかも感情的交流を生じ易いのではないだろうか。

#### (8)世の中

この項目はパターンが分散しやすいようだが「世の中 厳しい が おもしろい」という様な「肯一否」「世の中 厳しい が 仕方ない」という様な「受容」が多い。またA校では「世の中 のことは知らない が もっと勉強しなくては」という様な「決意」が、B校では「世の中 おかしい が 自分ではどうしようもない」という様な「自己」が多い。

#### (9)仕事

この項目はパターンが分散しやすいようだが「仕事 は納得できるものをしたい が そう簡単にはいかない」という様な「理一現」が高い様である。また、数値は低いが「期一不」の出現もこの項目の特徴といえよう。

#### (10)私のからだ

この項目はパターンが分散しているが、「私のからだ は頑丈だ が 時々かぜをひく」という様な「例外」「私のからだ は太い が しかたない」という様な「受容」が共通して多い様である。またA校では「私のからだ は健

康だ が ガンにはならないだろうか」という様な「不安」が、B校では「私のからだ は太い が やせたい」という様な「希望」が多くなっている。

#### (11)私の兄弟

この項目はB校では「肯一否」「例外」もある程度出現するが「私の兄弟 は兄が一人 が 遠くで下宿しています」という様な「説明」が多い。これは、父や母に比べ距離をとって見ることができるので客観的事実を「説明」するためと思われる。

#### (12)女

この項目は「女 はかわいい が 怖い面もある」という様な「肯一否」や「女 はかわいい が 感情的になると怖い」という様な「例外」が多い。また、B校では「女 は損だ が 仕方ない」という様な「受容」も多い。これらのパターンは感情的なものを含んだ記述であり「男」に比べると「女」の方が感情を引き出し易いようである。

#### (13)友だち

この項目は「友だち はすばらしい が 嫌な奴もいる」という様な「例外」が多いのが特徴である。これは、前半部では肯定するものの後半部ではすべての友だちを肯定できないという変化を生じるためと思われる。また「友だち は多い が 親友は少ない」という様な反応は「理一現」とした。

#### (14)私の母

この項目は「私の父」と同様に「私の母 はやさしい が 神経質である」という様な「肯一否」が多いのが特徴である。また「私の母 はやさしい が いつまでも健康でいてほしい」という様な「肯一肯」の反応は、この項目で出現することが多い。母の方が父よりも情緒的結びつきが強いためと思われる。

#### (15)争い

この項目は前半で否定することが多いので、「例外」「受容」「理一現」の3パターンの出現率が高い。この3パターンの評定上の留意点を説明する。

まず「争い は嫌いだ が プロレスは好き

だ」とか「争いは嫌いだ が やる時は徹底的にやる」という様な反応は「例外」とする。(ただし「争いは嫌いだ が 時々起きる」は「受容」とする) また、「争いは嫌いだ が なくなるものは仕方ない」という様にあきらめの気持ちを表面に出しているものは「受容」とする。そして「争いは嫌いだ が 戦争のない世界はない」という様に現実<sub>に</sub>目を向けているものは「理一現」とする。「理一現」と「受容」の区別は、具体的には次の様にする。即ち前半部で否定していて後半部で「争いは起きる」とか「争いはなくなる」という様な表現の時は「受容」とし、後半部に世界、世の中間、社会等の現実社会を表わす言葉が含まれる時 (ex.「人間にはつきものだ」)には「理一現」とする。

#### (16)私が好きなのは

この項目の特徴は「理一現」と「説明」の2パターンが多いことである。「理一現」は「私が好きなのは 音楽を聞くことです が 忙しくてなかなか聞けません」という様なものであり「説明」は「私が好きなのは 音楽です が 特にロックが好きです」という様なものである。この項目や「私が得意になるのは」では、前半部で肯定的感情を設定してあるので「肯一否」「例外」(このパターンの出現は割と多いが)が多いと予想していたが、意外に「理一現」に集中している。これは、設定の中に肯定的感情があると被検者はその対象の世界に入ってしまう、二面性よりも、その対象と自分の関係の現状を記述することがふえるためと思われる。

#### (17)男

この項目は、パターンが分散しやすい項目であるが、「説明」以外では、A校では「男はたくましくあるべきだ が 最近はやなよしている」という様な「理一現」のパターンが多く、B校では「男はたくましい が 女々しいのもいる」という様な「例外」が多い。これはパターンは異なるが、前半部で理想的な男性像を記述し、後半部で部分的に否定したり、現実<sub>に</sub>目を向けるというパターンが多いためと思われる。

#### (18)恋愛

この項目は「恋愛したい が 相手がない」という様な「理一現」と「恋愛はすばらしい が 回りが見えない人は困る」という様な「例外」が多い。また、この項目では「理一現」や「恋愛したことない が したい」という様な「希望」のパターンで自分に関係づける人と「例外」の様に対象として客観的に把える人がいるようである。

#### (19)学校

この項目は「説明」以外では、「学校は好きだ が テストは嫌だ」という様な「例外」と「学校は好きだ が よくさぼる」という様な「理一現」そして「学校は嫌いだ が 行かないとしかたない」という様な「受容」等が多い様であり、「争い」の項目と似ている。

#### (20)私が得意になるのは

この項目は「私が好きなのは」と同様に「私わ得意になるのは 人に勝った時 が めったにない」という様な「理一現」に集中する。またB校では「私が得意になるのは スポーツ が へたな種目もある」という様な「例外」も多い。

#### (21)金

この項目も「金はほしい が ない」という様な「理一現」への集中が特徴的であり、B校では半分近い反応がこのパターンである。またB校では「金はない が ほしい」という様な「希望」が多くなっている。いずれにしても、全面的な肯定を受け易い対象であるためと思われる。

#### (22)私の健康

この項目は「説明」を除くと全般にパターンが分散している。その中で両校とも出現率の高いのは「私の健康はいい が 時々かぜをひく」という様な「例外」である。また、この項目の特徴は「私の健康は大丈夫だ が がんにならないだろうか」という様な「不安」の出現率が高いことである。これは、不安が健康にはつきものであるためと思われる。

#### (23)女・男(異性の)友だち

この項目は「女友だち(女性の場合は男友だ

ち) がほしい が いない」という様な「理一現」「女友だち はいい が めんどうな時もある」という様な「例外」、「女友だち はいい が ほしい」という様な「希望」のパターンが多い。これは「恋愛」と同じ様な傾向であり、異性を対象にするという面での共通性のためにパターンも似てくるものと思われる。

#### (24)私を不安にするのは

この項目は「私を不安にするのは テスト が 受けないと仕方ない」という様な「受容」と「私を不安にするのは 暗闇 が もっと しっかりしなくては」という様な「決意」が多いのが特徴である。これは、前半部での不安な状態に対して、現実としてすんなり受け入れるかそれに立ち向かおうとするかという2つの態度を引き出し易いためと思われる。

#### (25)家

この項目では「家」を建物とみて「家 は 大きいのを建てたい が 無理だろう」（「理一現」）と答える人と「家」を家庭と見なして「家 に 帰りたい が 休みにならないと帰れない」（「理一現」）とがある。パターンとしては「理一現」と「説明」以外は分散していて特別に出現の多いパターンはない。

## 4. おわりに

本論文では、前回の論文だけでは評定が困難であったり誤解されやすい点について、注意点を再検討し、項目別に出現しやすいパターンを例示しながら検討した。それは、このテストがSCTの応用でありながら、より客観的な性格検査を目指しているために評定の基準が明確である必要があるからである。即ち、誰でも容易に迅速にそして正確に評定できなければ、各反応パターンの性質を明らかにしても意味がないと思われるのである。

しかし、ここで注意しなくてはならないのはK-85版のSCT-Bの各項目での反応パターンがいつも今回の結果と同様であるとは限らないことである。同じ大学生でありながら国立の総合大学と公立の芸術系大学の2校の間でもかなりの違いがあった（その違いは大学間の学生

の性格の違いであるとも考えられるし、そういう研究も興味があるが、今回そのことには触れない）。そのことから、集団間で出現パターンが異なることも十分予想できるし、年齢、職業、性別等によって当然違ってくるものと思われる。従って、今回の項目別パターンの研究は、出現しやすい項目の傾向であり、各項目を評定する際の基準を理解してほしいと考えている。

しかし、出現傾向は全く流動的なものではなく、筆者は各項目と反応パターンの関係はかなり妥当なものだと考えており、その根拠も納得のいくものであった。そして、異なる集団で施行しても、非行者とか神経症者という様な特別な集団でない限り、似たような出現傾向が得られるものと考えている（差があるとすれば、項目によっては性差が出ることは考えられる）。

今後は、評定の基準がある程度明確になったという前提のもとに、反応パターンの性質を明らかにしていくという課題に取り組んでいこうと考えている。

## 参 考 文 献

- 小林哲郎 1985 SCT-Bの評定について—評定者間の評定の一致率の検討—日本心理学会第49回大会発表論文集 240
- 小林哲郎 1985 SCT-Bの評定について 金沢美術工芸大学学報 第29号 35-44
- 佐野勝男・槇田 仁 1961 精研式文章完成法テスト解説 金子書房